岩手郡医報

平成９年２月　No55
編集　発行
岩手郡医師会
題字　雫石町高橋孝先生

平笠女裸参り

各地で〝裸まつり〟が行われているが西根町平笠地区には全国でも例をみない「平笠女裸参り」が恒例行事として、１月８日に行われた。

女性たちは白のジュバンにモモヒキをはき、腰ミノを巻きつけて、西根町平笠の宮田神社から西根町大更の八坂神社まで約12キロを５時間かけて験竿（けんざお）と鈴を手に、無病息災、家内安全、五穀豊穣を祈念して、口に白紙をくわえ鈴の音をひびかせて町内を行進する。

これは享保４年（1719年）岩手山の噴火を恐れた村人たちが山の神を鎮めるため岩鷲山権現に奉納したのがルーツとされ、約270数年も続いている伝統行事でもある。

（M．S記）

目　次

平笠女裸参り……1
講演会・忘年会――「平泉はなぜ滅びたか」
作家　中津　文彦 氏…2～3
平成８年度　岩手地区学校保健会研修会
「児童生徒の心の健康を考える」
田村　幹雄 氏……4
職業アレルギーについて　西島　康之……5
岩手郡医師会ゴルフコンペ……6
平成９年度国保診療報酬請求書
提出締切日について……7
平成８年度県民健康講座－西根町……7～8
随想「紅白歌合戦」　雫石町　高橋　孝……9
岩手郡医師会理事会・役員会……10
編集後記……10

岩手郡医師会：岩手郡滝沢村鵜飼字諸葛川16－19　TEL 019－684－3221 FAX019－687－3785

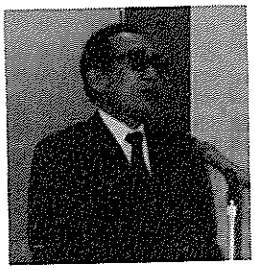
講演会・忘年会

と　き：平成８年11月30日（土）午後４：00～
ところ：ホテル・メトロポリタン盛岡 NEW WING

A．講演会

１）医政問題
郡医師会長　高　橋　牧之介

２）特別講演
「平泉はなぜ滅びたか」
作家　中　津　文　彦先生


中津　文彦　氏

略歴：**中　津　文　彦**（なかつふみひこ）氏

昭和16年、岩手県一関市生まれ。学習院大学卒業後、岩手日報社勤務。昭和57年『黄金流砂』にて第28回江戸川乱歩賞を受賞。その後本格的な作家活動に入り、歴史を題材としたミステリー、社会派推理分野で活躍。
他の主作品に『闇の弁慶』『「独眼竜」野望の殺人』（ともに祥伝社）『闇の関ヶ原』（実業之日本社）『消えた義経』（ＰＨＰ研究所）『「大奥」背徳の殺人』『西郷隆盛殺人事件』『南海 北緯17°の殺人』『興隆と滅亡の方程式』（ともに祥伝社）

〈講演要旨〉

先生の経歴紹介からも伺えるように、少年期を一関市で過ごしたせいか、必然的に平泉文化、藤原三代（義経など）、源平盛衰などについての歴史的背景に興味をもつようになったという。
新聞記者（岩手日報記者）のときから何かと感心があり、この歴史探究について「自分は歴史の研究家でもなければ、もちろん学者でもない。ただ単に歴史が好きだというだけの小説家である。それも歴史上のナゾとされているものが好きなのだ。これまでの著書にはやはり歴史推理のものが多く。著作リストをめくってみたら、40数冊のうち29冊が歴史ミステリーだった。」（「興隆と滅亡の方程式」より）と著書にも述べている。

37～38才の頃、江戸川乱歩賞に応募し、徐々に作家活動に入った。今までの書物でも、歴史ミステリーの書が多くあり、最近の作家は歴史小説ではなく、歴史ミステリーの分野の作家が多くなっている。

江戸川乱歩賞はたまたま第28回が私で、第26回が井沢元彦氏、第29回が高橋克彦氏の岩手県人が受賞している。

三人とも名前に彦という字がつくので「彦の会」という秘密結社（？）を結成し、しょっ中会合を持ち、明日（12月１日）盛岡劇場で行われる「文士劇」には井沢・高橋の両氏も参加している。

歴史を推理する、歴史にはナゾがある、歴史上のナゾを解き明かそうとするとき、その場面に登場した人物になったつもりで思考するということは避けなければならない。何故なら、人間の「本質」はさほど変わらないものだとしても「思考」のほうは、その人間の置かれた時代や環境の影響を受けて変化するものだからである。（「興隆と滅亡の方程式」より）

日本の歴史というのは、会社でいえば社史のようなものである。歴史の中で法則性というものがあり、歴史を推理する上で闇の部分に光をあてる作業をするときには割と役に立つ。

世の中は組織（例えば町内会、政党、国家、企業など実に多種多様である。）で成り立っていて、人間集団には盛衰がある。決定的に違うことはサイクルの長さ、短さであり、もう一つは人間がおぎゃあと生れ出るとき♂か♀かの選択は出来ない。

組織というのは人間の意志をもって集めてスタート出来る。組織が興きていく、滅亡していくことには法則性がある。「興隆の

方程式」として三つの共通性がある。

滅びる組織というのは「孤立」する。それから「準備不足」が明らかであり、そのとき必ず出てくるのが「奇策」をするという共通項が浮かび上がってくる。

例えば帝国陸海軍であり、徳川幕府であり、武田信玄などそれぞれしかりである。

ぼっ興しているものとしては大化の改新、奥州藤原一族、徳川幕府などである。

これらのことは、政治の世界では社会党が崩壊し社民党として名称を変えたことなどにも似ている。また中尊寺などの寺院文化は、清衡の「奇策」の一つである。

奥州藤原氏は、明らかに蝦夷の血を引く一族である。平泉に居を定めた初代清衡は、前九年の役で敗れた安倍一族の末裔である。奥六郡と呼ばれた現在の岩手県域に勢力を張っていたが、1062年源氏の前に滅び去った。(「闇の弁慶」より)

清衡　から数えて三代目。秀衡が藤原氏の棟梁の座についたのは、1157年頃のこととされている。義経は平家追討戦を勝利に導く大殊勲をあげながらも兄頼朝と不仲になったおかげで追手のかかる身となり、奥州平泉へと逃げた。だが、頼みとする秀衡が亡くなり(1187年)、次第に鎌倉の圧力が強まる中で、ついに泰衡に襲われ、自害して果てる。「吾妻鏡」が伝える生涯は、日本人なら誰でも知っている。

この義経に北行伝説なるものが存在することも、多くの人々が知っている。実は泰衡に襲われて死んだのではなく、義経は生きて平泉を脱出し北へ向かったのだという伝説である。(「消えた義経」あとがきより)

なぜ義経は、平泉を後にしたのか。

秀衡亡きあと、しだいに泰衡との間が不仲になり、ついには追討を恐れて密やかに平泉を脱出したのだろう、という見方がある。だが、こっそり平泉を逃げ出し、たどり着いた先が津軽だったというのでは矛盾がある。当時の津軽は安東氏の支配下にあり、十三湊という国際交易港が繁栄を誇っていた。最近の発掘調査によると、その規模は博多並みだっただろうという。

(中略) 平泉から津軽に向かうのに、太平洋を北上するという意表を突く隠密行は、鎌倉の探索の目を眩ますためだったのではないか。そう考えたほうが、最終的に津軽にたどり着いたことは納得できる。三陸海岸には、今なお内陸部からは隔絶された地域が多い。人目を眩まして逃走するには、うってつけのコースだったといえる。そして、予め津軽を目的地にしていたのだとすれば、これは義経と泰衡が合意のうえでやったことだったとしか考えられないのである。

対鎌倉戦を前に義経が泰衡と示し合せて平泉を後にしたとすれば、これこそが「奇策」のための行動ではなかったのか。そう思い当たるとき、初めて義経北行説を支持せざるをえないことに気づくのだ。

繰り返すが、平泉は滅びた。(「興隆と滅亡の方程式」より)

(M. S記)

B. 忘年会　ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING

講演会終了後、講師の中津文彦氏も参加されて同所において忘年会が行われた。

今回の講演会には、多数の会員が参加され、最近注目されている地元の歴史ミステリー作家のお話しを熱心に拝聴していた。それぞれが口々に「大変おもしろいお話しであった。また機会があったら続きをお聞きしたい。」というあいさつが多かった。

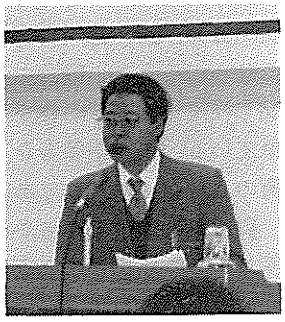
途中からは雫石町上原充郎先生の「サックスによるなつメロ」の演奏も披露された。

上原 充郎 先生の演奏

平成8年度
岩手地区学校保健会研修会

日時：平成8年11月16日(土) 午後2時15分
場所：岩手県自治会館　3F　第1会議室

講　演　『児童生徒の心の健康を考える』
岩手県中央児童相談所
相談指導課長　田　村　幹　雄　先生


田村　幹雄　氏

《略　歴》

昭和26年生れ	下閉伊郡山田町出身
昭和49年4月	岩手県身体障害者更正相談所　心理判定員
昭和53年4月	岩手県宮古児童相談所　相談調査員
昭和55年4月	岩手県精神衛生センター心理判定員
昭和61年4月	岩手県宮古児童相談所　相談判定係長
平成2年4月	岩手県精神薄弱者更正相談所　所長補佐
平成7年4月	岩手県中央児童相談所　相談指導課長

《要　旨》

1．児童に関する状況
- 少子化の動向・社会経済状況（所得水準・産業構造）
- 地域構造の変化・家庭の質の変化（家庭機能の変化・ホテル家族・逆機能現象）
- 児童の変化・親の変化・親子関係の変化

2．児童の発達
- 乳児期・幼児期・学童期・青年期・情緒の発達・自立への課題

3．児童相談所における相談の状況
- 相談全般に関わって・相談の進行・電話相談

4．児童相談所におけるいじめ相談について
- 態様……単独、集団
- 内容……からかい、いやがらせ、仲間はずれ、暴行、無視等
- 結果……取り上げられない、学校と保護者の対立、エスカレート

5．不登校相談について
- 基本的な考え方（病気ではない、誰でも起こる、きっかけ）
- 不登校によって起きる変化（家庭、学校）
- アプローチ・休養・特別視しない・結論を急がない
- 犯人探しをしない・周囲も息抜きをする・自己決定の尊重

6．児童の権利尊重のために
- 虐待・ネグレクト（子供をほったらかしにしておくこと）

などについて詳細に事例をまじえながらお話しいただきました。

第19回産業医部会総会・研修会

職業アレルギーについて

―― 特に職業喘息 ――

講師　県医師会産業医部会幹事　西　島　康　之

職業性喘息とは、職場に存在する特定の物質に起因する喘息であり、主としてＩ型アレルギー機序により発症する。この疾病の歴史となるとその記載は、紀元前220年である。西欧では、1700年代にすでに穀粉喘息が記載されている。我が国の最初の報告は、1926年関氏による米スギ喘息の症例である。

職業性喘息の原因になる物質は、動物、植物、化学物質の粉塵、フューム等であるが、次々と報告され、国内外合わせると現在200種を越える。

本症の認識の普及とともに、今後も、産業の発展、複雑化と相まって引き続き増加すると思われる。その頻度は成人喘息患者の５％位と考えられる。病歴上、職場での就業と喘息病状との間に因果関係を認めるときは、本症を疑い診断を進める。そのためには、以下の点をあきらかにする必要がある。

1．原因物質とそれに対する免疫抗体の証明

2．就業により誘発され、休業により軽快あるいは消失する可逆性閉塞性換気障害（喘息症状）

実際の治療の場では、まず職場で取り扱う物質及び作業状況についての詳細な問診が必要である。皮膚テストやＲＡＳＴなどにより、当該物質による感作を証明するとともに、ピークフローメーターを使用して暴露と喘息症状発作との関連を確認する。確定診断は、特異的吸入負荷試験によって行われる。

本症の患者にとっては離職により重症の喘息が完全緩解することも可能である。一方、生活の糧を失うという死活問題を招くことにもなり得る。また、企業にとっては産業衛生面での予防や補償など職場管理上大きな課題となる。したがって、本症は少数例であっても社会的影響が大きいという点が強調されるべきである。

また、最近、酪農家に増加している過敏性肺臓炎の代表的疾患である農夫肺について私のこれまでの経験及び疫学的調査成績そして管理、予防対策についても、産業医の立場から報告した。

（この内容は、平成９年１月18日県医師会館において講演されたものである。）

岩手郡医師会ゴルフコンペ

とき：H8．10．27（日）
ところ：西根町 南部富士C．C

当日の参加者

紅葉真盛かりからやや後半と思われる秋の岩手郡医師会ゴルフ愛好者の集いは、10月27日(日)南部富士C．Cにて行われた。

今年の南部富士C．Cの周囲の紅葉は、黄色、紅色など特に色彩やかな感じがする。落葉を踏みしめながらのゴルフシーズンも終盤となる10月の末、昨夜来の冷え込みで、朝の気温が7℃と寒い早朝のスタートであった。

高橋郡医師会長は所用のため急拠参加できず、また八角先生も体調がすぐれないため、朝の御挨拶だけで今回プレーは控えられた。

朝のハーフラウンドはセーターやジャンバーがなければ寒かったが、後半からはセーターがなくともプレーできる程日が射して、雪が中腹までみられる岩手山も姿を現して、絶好のゴルフ日和となり、それぞれのスコアも順調にアップしていくはずであったが‥‥

(右)優勝した坂井先生
(左)は幹事の三善先生

実際には仲々そうもいかず、今回の優勝はやはり実力者坂井先生であった。

ゴルフは普段のゴルフに対する心構え、忍耐、努力、練習量、集中力、リラックスが常に要求されるような気がする。今回もまた反省点としてこれらを肝に銘じて、次回に頑張りましょう。

またアトラクション（ドラコン、及びニアピン）については、それぞれ分散したようであり、中には及川先生のように、パートナーにもよきアドバイスを受けながら（?）、初めてバーディーをとった方もいたようで楽しく一日を過ごすことができたようです。

今回も御一緒していただいた協賛各社の諸氏にも感謝します。次回もまた多くの方々をお誘い合せの上参加下さいますようお願いします。(M．S記)

〈成　績〉

順位	氏　名	北上川	岩手山	GROSS	HDCP	NET	アトラクション	
1	坂井博毅	37	39	76	3.6	72.4	優勝	B.G D.C
2	嶋　信	40	42	82	7.2	74.8	準優勝	D.C N.P
3	土谷正彦	35	41	76	1.2	74.8		D.C N.P
4	三善　悟	45	48	93	16.8	76.2		
5	栃内秀彦	47	53	100	19.2	80.8		N.P
6	吉島一夫	48	55	103	21.6	81.4		
7	細井信夫	53	50	103	21.6	81.4		N.P
8	及川忠人	52	60	112	28.8	83.2	B.B	
9	佐藤郁郎	53	49	102	18.0	84.0	B.M	

〈参　考〉

1	井上　督	45	45	90	15.6	74.4	
2	大森慎一郎	49	51	100	24.0	76.0	
3	渡辺則之	49	49	98	18.0	80.0	D.C
4	鈴木　大	49	51	100	18.0	82.0	
5	永山康秀	55	60	115	28.8	86.2	

平成9年度国保診療報酬請求書提出締切日について

●提出締切日について

(1) 通常月　10日午後5時まで

(2) 特例月

平成9年　1月提出締切日
1月13日(月) 午後5時まで

平成9年　5月提出締切日
5月12日(月) 午後5時まで

平成9年　8月提出締切日
8月11日(月) 正午まで

平成9年　10月提出締切日
10月13日(月) 正午まで

※社保診療報酬請求書の提出協力日につきましては、わかり次第お知らせ致します。

平成8年度県民健康講座

● 西根町会場 ●

西根町における県民健康講座（演者は細井信夫先生）

と　き：平成9年1月22日(水)
1月29日(水)
2月5日(水)

ところ：西根町民センター

西根町　嶋　　信

平成8年度県民健康講座は、大寒も過ぎ、盛岡で朝の気温が氷点下7.4℃という今冬一番の冷え込む大変寒い時期に西根町の町民センターに町民の男・女合わせて129名の参加者を得て開催された。講演に先がけ開講式では、主催者を代表して岩手保健所、玉田清治所長より、「3回に分けて『くらしと健康』の内容のお話しを聞く機会を得た町民の方々に対して、充分に理解して帰られるように……」との挨拶があり、続いて郡医師会長、(高橋牧之介先生所用にて欠席のため代理として西島康之副会長)、地元西根町長工藤勝治氏の「今日からのお話しを参考にしながら、『この町に生まれてよかった。この町に住んでよかった。』と思えるように、人生80年を大いに健康に留意して長生きしていただきたい」という挨拶をいただいて早速講演会に入った。

第1回目最初の演者は、「中高年の健康管理」と題して岩手保健所長の玉田清治先生は、人生80年代、中高年からの健康管理として、最近の寿命をみても、平成6年の寿命は♂76.57才 → 平成7年には76.35才、♀82.34才 → 82.84才とあまり著変なく、相変わらず女性が長生きしている。

また、成人病といわれたガン、脳血管疾患、心疾患などを生活習慣病と呼ぶようになり、その死因もそれぞれ上位を占めているのが現状であり、この他には高齢者などの不慮の事故が増えていることが指摘された。

この時期の健康づくりの三本柱として、食餌は栄養のバランスを考えてとること、適度の運動、および休養を十分にとることなど健康には十分留意し、町で実施している循環器検診には積極的に参加し、ほかに人間ドックとかの健康診断を受けることを忘れないでほしいと適当にユーモアを交えて参会者の笑いを誘いながらお話し下さいました。

引き続いて、東八幡平病院の及川忠人先生からは、専門領域の「脳梗塞について」スライドを使いながら、最近の診断技術の進歩によって、「脳ドック」による脳疾患の早期発見、

治療も可能となり、またこれによって、症状が無い場合での病気の発見もあり得るということもあり、交通戦争による脳外傷の早期搬送手術により、リハビリテーションの重要性も認識されて早期に社会復帰も可能となってきた。

第２回目となった１月29日(水)も男性５人も含めて133名の参加があり、最初に西根病院の細井信夫先生の「よりよい生のために」というタイトルで、卵子と精子の出会いから「生命ということの始まりなどを話したあと、宮沢賢治の童話（どんぐりと山猫）の一節を引用して「生きる」ということを力説し、志村喬主演の映画「生きる」の一場面を解説し、最後には「生命短かし　恋せよ　乙女　あかき唇　あせぬまに……」を朗読するなどとてもロマンチックにこれからの長寿社会を大いに生きがいをもって生活することを述べられ締めくくった。

そのあと講演した嶋は、「中高年の婦人科疾患」として女性の一生は、幼小児期、思春期、性成熟期、更年期、老年期に分けられる。わが国の女性は、性成熟期間と同じ程度の期間を女性ホルモンの欠乏状態で過ごすことになり、その間のＨＲＴ（ホルモン補充療法）についてもふれ、更年期及び老年期の過ごし方や五ヶ条の養生訓や骨粗しょう症や動脈硬化症について簡単にふれた。

65才以上の高齢人口は人口の15％あり、♂714万人に対し♀1,116万人と約1.4倍女性が多い。よって女性が長生きし、女性の有病率も高くなるため、これからの医療というものをこの方々を取り組むというよりケアをしていこう、健康管理をしていこうと考えている。

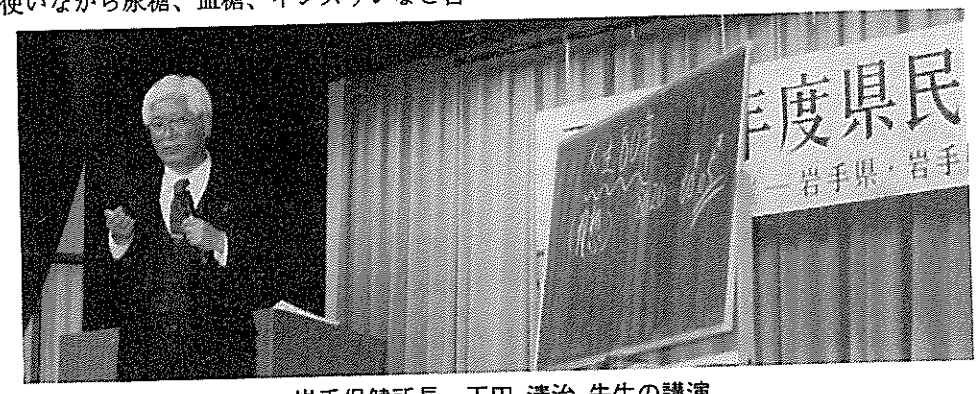
第３回目の２月５日(水)は、西根病院の小野靖之先生による「糖尿病について」は、黒板を使いながら尿糖、血糖、インスリンなど言葉の説明から、原因として、1）食べすぎ　2）運動不足　3）ストレス　4）遺伝的素因などが考えられる病気であり、悪化すると、網膜症、腎症、神経障害などの三大合併症を伴い、また糖尿病の治療については、治すのではなく、食事療法とか運動療法によって血糖値をコントロールすることで日常生活や社会生活をいかに楽しく過ごすかに力点を置くことが大切である。

最後の演者となった郡医師会長の高橋牧之介先生は、「ターミナルケア」（終末医療）についての話しの中で、「ここに参会の皆さんは100％死を迎えます。」がそのための生命の尊さを重んじて寿命を延ばすことに努力し、救命・延命のために先進医療が発達してきた。Quality of Life（生活の質）を向上させるため、本人はもとより家族のケアの面でも残された月日を苦痛から解放し、安らかに有意義に過ごさせるように援助する医療が求められる。

また最近話題になった安楽死、尊厳死の問題にもふれた。

３回の講座を通じて、農閑期とはいえ好天に恵まれ、参会者も日一日と多少増えており、参会者の平均年齢も１回目60.09才、２回目59.37才、３回目57.21才と若返っていたのには驚いた。

閉講式にあたり、西根町長工藤勝治氏の２月５日の当日同町内で100才の誕生日を迎えられた方（女性）を訪問し、大変元気でカクシャクとしておられた姿を拝見してきたことを報告され、本日参会の皆さんも健康に気をつけこの長寿にぜひあやかってほしいと訴えられた。そして高齢者福祉大会の「支える長寿、あなたが主役」のスローガンのもと、ますます頑張ってほしいと締めくくられた。



岩手保健所長　玉田 清治 先生の講演

随想

紅白歌合戦

雫石町 高橋 孝

生まれて初めて自分の家を離れて年越しをした。酒を飲み、食事をしてお膳を離れると、家のときと違い何もすること無く、テレビの番組も、この時間帯には面白そうなものもない。さりとて家内と交響楽を聞く気にもなれず、数十年振りに紅白のチャンネルを回してみた。

予想通りに歌手の名前も歌も聞いたことの無い歌が多く、歌の言葉が早く、母音は殆ど聞こえず子音に異常に力を加えるのか、聞いた事も無いような、どこか、外国の言葉の様に聞こえる。子供の頃進駐軍にチュウインガムをねだって日本語を外国語然と発音して戴いたころを思い出した。

意味も解らず、衣装も老人の目には馴染まず、いずれ年寄りの耳、ゲヒルンでは中々理解できない。

テレビ等、歌の番組を見ることもないが、惜しまれて早くこの世を去ったテレサ・テン等中国、韓国から歌い手が沢山来て居るようだが、この人たちの歌は言葉が不自然でも、日本人の歌手より全身で歌心を表現している様に見える。同音異義語も有るが、日本語は一つ一つに夫れ夫れ意味を持ち、まして歌詞に使われる言葉は美し過ぎるくらい美しい。

言うまでもなく歌詞は短い、字数の少ない中に無限の夢であったり、景色であったり、勿論人心を歌い上げている。私は外国語は全く駄目だが、日本語の話しを聞く限り、「言葉を選びながら、一言一言を噛み締めながらお話しをする」この様な「話し方」が聞きやすいし、内容によっては感動もする。

この噛み締めるの意味は口から飛び出して人の心に入り込む音の意味をもう一度ようく考えながら、更に母音と子音が調和がとれる状態で話すことで、話し方教室でも教えるかもしれないが、誰にも教えられなくとも自分の声に合った、相手に意味が通じる思いやりの心のようにも思える。

詠進でも歌を二度繰り返し歌い上げ、歌人の心を正しく伝える。バンドは煩いし、言葉ははっきりしないし、解らないし、赤、青、緑の衣装がピラピラするし、ふざけるな！と言いたい。自分が時代に乗れない情けなさが少しと呆れ果ててか大きなため息をつき一刻の静寂があった、其のとき隣のベットより女性の鼾が聞こえた、歌を聞いて腹を立てるより早く眠りについた方が健康上いいのかも知れない。

学校の教科書では「太郎さん、花子さん」と敬語をつけて呼ぶことを教え、学校では教師は親しみをこめてと、太郎！花子！と投げやりな言葉で呼び捨てにする。

先日クラス会で友人が「同級生も、先輩、後輩も無くなった、後輩と廊下ですれ違っても会釈すらしない、今の連中はなんだ、こっちが会釈をしても知らんふりをして通る」と病院の廊下の情景を話し嘆いていた。

医師はいかに日進月歩の優秀なる診療機器の中にあっても所詮無機的で、対象が人間でしかも、心共々癒すのであれば、そこには有機的一時、一刻の経験が物を言う、老医師の嘆きと聞こえるだろうが、先輩、後輩の礼をつくすことは勿論人の道でもあるし、ましてや医師だからこそ大切にしたいと思う。

私も「先生と呼ばれるほど馬鹿でなし」に近い気持ちではあるし、今はあまりにも先生と呼ぶ職種が多いが、先輩を呼び捨てにしたり、君づけで呼んだり、さんづけで呼んだりするよりは、広辞苑で見ると、もともと先生なる呼称は教師、医師、弁護士に使われたようで、仲間内でもこの「先生」なる敬称が心地よく聞こえるように思う。ましてや後輩に対しても「先生」を付けて呼ぶのを聞くとその人の品質を感じる。

チョベリバ、チョベリグー、チョロンブ、更にはイニシャルの羅列等の言葉を聞くとき日本本来の美しい文化が音を立てて上がっているのか、音を立てて下がっているのかどちらかではある。

岩手郡医師会理事会

日　時：平成８年11月13日(水)午後6：30
場　所：盛岡市大通り　梓
出席者：高橋(牧)会長、高橋孝、西島両副会長、根本、栃内、篠村、上原、岡本、坂井、八角、嶋、佐々木の各理事

1）平成８年度結核対策従事者医師研修会について(11月19日 於 エスポワールいわて)
2）岩手県有床診療所協議会について
3）平成９年度健康診断実施計画書の提出について（11月24日 於 県医師会館）
4）講演会・忘年会（11月30日）について 於 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING
6）平成８年度県民健康講座（西根会場）
7）会員の入会
8）通常総会開催について（平成９年２月か３月）
9）その他

岩手郡医師会役員会

日　時：平成９年１月７日　午後5：30
場　所：ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING
出席者：会長、副会長(高橋、西島)、八角、上原、及川、篠村、根本、嶋、岡本、細井、佐藤、栃内の各理事、鑑事

① 第13回岩手県学校保健学校医大会出席について（Ｈ９．１．19(日)）
② 社会保険指導者講習伝達会の出席について（Ｈ９．１．26(日)）
③ 成人病検診協議会の開催について
④ 子育てにやさしい環境作りの具体的取り組みについて
⑤ 平成８年盛岡地区生涯スポーツ推進実践交流大会
⑥ 盛岡地区思春期保健相談員など研修会
⑦ 平成８年度痴呆性疾患セミナー
⑧ 平成８年度学校保健活動状況及び平成９年度学校保健活動テーマの報告
⑨ 医療講演会の開催（県立中央病院で）（Ｈ９．２．１(土)）
⑩ いわて医師共同組合総代選出について
⑪ 平成９年度の国保提出締切日について
⑫ 平成８年度県民健康講座（西根町．Ｈ９．１．22, １．29, ２．５）
⑬ 第46回全国高等学校スキー大会（Ｈ９．２．４－２．８）
⑭ 岩手郡医師会通常総会の開催について（Ｈ９．３．１(土)）
⑮ その他

編集後記

●今年に入ってかなり厳しい寒い朝も数日ありましたが、１月８日西根町平笠地区の女性による裸参りの行進が行われ、今年も小学生も行列に加わって、岩手山の麓の部落として五穀豊穣、家内安全などを祈願した。裸参りといっても写真でみるように白装束に身を包んだものである。

●昨年11月30日(土)に行われた講演会における歴史ミステリー作家中津文彦氏の「平泉はなぜ滅びたか」のお話しは医師会会員の参加者も今までにない参加者で、会長も非常に喜んでおられました。また内容もすばらしいものであり、その多くを語りつくせないのが残念ですが、確かに演者のいう〝組織〟というものはどのようにして興り、栄え、滅びていくのかについてそれぞれの共通項、即ち、「準備不足」「孤立」「奇策」があり、この共通項がそろったとき、あらゆる組織は必ず滅び去っていく。また、これからは組織の衰退を防ぎ、滅亡を食い止めるための〝予防医学〟や興隆を促す〝健康増進〟などの研究が盛んになってくるべきであり、まず歴史に学ぶことから始めるべきであると述べている。(「興隆と滅亡の方程式」より)
多くの会員からこの続きをお聞きしたい旨のメッセージがあった。そのあとの忘年会にも中津氏も参加していただき、上原先生のサックス演奏もあって和気あいあいのうちに行われた。

●西島先生より産業医部会研究会での発表された内容の一部をお送りいただきました。ぜひ参考にしていただきたい。

●郡医師会ゴルフコンペはグロスでは坂井先生と土谷先生が同スコアではあったがＨＤが差をつけてしまった。もう少し多くの参加者があればと切望する次第です。

●随想「紅白歌合戦」で、先生の友人のお話しについては、それぞれ肝に銘じて、これからも何かと問題となることでしょう。

●「おらほの先生」は休載します。

(Ｍ．Ｓ記)